

岡山へ避難 放射能漏れ不安訴え

常盤さん夫妻

太平洋に面した南相馬市は福島第1原発から北約25キロにあり、大津波では2千戸以上が壊滅、死者・行方不明者は千人以上という甚大な被害を受けた。15日には市の大部分が屋内退避となった。

常盤さんは市中心部の原町区で整形外科診療所を開業。地震後、災害拠点病院である市立総合病院に入ったが、「電話やインターネットも不通で、防災対策はあったはずなのに市と病院との間で連



福島県南相馬市の被災状況を話す常盤さん夫妻＝岡山市

絡が取れなかった。支援要請は届かず、機能不全の状態。医薬品も

た」と振り返る。街のスーパーに品物はなく、通りには人影もなくなっていた。

炉心溶融や燃料の露出、水素爆発、基準値を超える放射性物質の検出。日本が初めて経験する原発の危機に、聡さんは「国は放射線量の観測値を発表しているが、住民には発表をそのまま信じられるのかという強い不安がある」という。

実際、群馬、新潟県などに少なくとも2400人以上の市民が集団避難している。被災への恐怖もある。常盤さん一家は「今も続く余震に夜も眠れない3人の子どもの姿を見て」県外避難を決意。以前から交流のあった国際医療ボランティア・AMDA(本部・岡山市)の関係者を頼って16日、岡山に

ただ、古里への心配は頭から離れない。市の非常勤保健師も務める恵子さんは「いまだに自宅にこもっているお年寄りは少なくないと思う。体が不自由な人もいるだろう。市職員が各戸を回っているだろうが、合併(2006年)で担当が代わり、一人一人の詳しい状態を把握できていないのでは」と言う。

聡さんは「福島県内の病院で泊まり込みで診療を続けている医療スタッフは疲弊しきっている。私自身、医師として役に立ちたいと思うが、今はどうしていいか…。いつかは南相馬に戻りたい。それまではAMDAを通じて何かできれば」と力を込めた。

(伊丹友香)

逃れた。